

1 年生指導における「一年団通信」発行の試み

久保川晴美* 中岡尚美*

Trials of the newsletters for the guidance of the 1st graders

Harumi KUBOKAWA, Naomi NAKAOKA

Freshmen often get confused because their school life at National College of Technology is very different from that of junior high school. They and their parents wanted the college to provide them with helpful guidance. Therefore, we have tried some different methods in order to provide guidance for the 1st graders in the past three years. We need to offer appropriate information to the freshmen and the parents and respond to the requests that we have received so far. In this paper, we report the effect of the newsletters for freshmen and their parents as one of the profitable methods we have explored. We conducted the questionnaires in order to investigate the effects and clarify their needs.

Key Words : Guidance for the 1st graders, Newsletters, Information offering

1. はじめに

近年の少子化に伴い、中学校卒業生の数が減少し、本校においても入試倍率が下がっている。そのために、年々入学してくる新入生の学力の格差が大きいことが問題となっている。また、学力のみならず、行動面・生活面でも多様性が目立ち、学生指導に関して、従来通りのやり方では十分な指導が出来にくくなっている状況になってきている。

従来、高等専門学校は高等教育機関として、学生指導に関しては、後期中等教育機関である高等学校とは一線を引き、学生の自主性・自律性を尊重した指導を行ってきたところがほとんどであろう。本校も「理念・教育目標」の中に「自由」「自律」という言葉が入っており、学生生活の多くの面で、学生の自主性を重んじてきている。例えば、制服を廃止し「標準服」としたり、通学にバイクの使用を認めたりしている。学生たちの中には、「自由」という言葉のみに惹かれて入学してきた者もいるという声も聞く。上級学年の学生であるならば、それなりのコントロールもでき、ある程度の責任もとれるが、中学校を卒業したばかりの1年生はいきなりの「自由さ」の中で戸惑うことが多い。そして、それが学習意欲の低下、生活面での乱れにつながった例がこれまでも多々あった。

また、高校生年齢の子供を持つ親としては無理からぬことではあるが、保護者も高等学校と同じような学生指導を期待している向きもあり、従来から

「学校からの情報不足」「手厚い指導の欠如」を指摘されることがあった。

そのような状況に対処し、学生を高専生活にソフトランディングさせることを目的とし、平成18年度より1年生の学生指導の在り方を見直すこととした。本稿では、平成18年度以降に取り入れた1年生指導の具体的な施策を紹介し、特に一年団通信発行の状況とその成果を中心に述べる。

2. 具体的な施策例

平成17年度の後期も半ばを過ぎたころより、平成18年度に1年生を担当することになっている一般科目の教員を中心に1年生に対する具体的な指導方法を検討してきた。厳しい姿勢を保ちながら、手厚い指導で高専生活への導入を図るということを主眼にして、平成18年度入学生より以下のような取組を開始した。

①副担任制度の導入 — 本校は従来、1, 2年生は一般科目の教員がクラス担任をし、3年生以上は各専門学科の教員が担任をするという担任制をとっている。また、平成13年度から1年生のみ「混合学級」を導入し、各クラスは一般科目の教員が担任してHR運営をしている。同時に、学科HRの時間を設けて、学科相談教員という名のもと、各専門学科の教員も相談助言を行っている。

クラス担任の仕事は多岐にわたり、カリキュラムにあるLHRの実施、清掃監督、成績処理、個別指導、問題学生については度重なる保護者連絡・面談など1年中息つく暇もない。年度によっては、手のかかる学生が多く、担任一人で対処するのは大変なことがある。もちろん、個人的に他の教員に相談したり、カウンセラーに助言を求めたりするが、あまり組織

として対応することはなかった。そこで、複数の目・手で1年生に関わることができる方法として考えたのが副担任制度である。平成18年度は「1年団」という形で、4人の担任に加え、1年の授業を担当している教員2名が副担任として関わった。

さらに、平成19年度からは教員の数に余裕があったので、各クラスに正担任に加え、副担任を置いている。副担任はSHRや清掃指導の分担をする他、HR運営について担任の相談を受けたり、場合によっては保護者への対応を分担することもある。

②SHRの実施 — 平成17年度までは、全学年始業時刻の8時40分までに教室に入り、1時間目の授業を受けることから毎日の学校生活がスタートしていた。諸連絡は校内数カ所にある掲示板を利用し、学生は1日数度それを見て学校行事・時間割変更などを把握していた。しかし、中学校までの細かい指導を受けてきた1年生にとっては少しばかり不親切ではないかということ、また学校に慣れるにつれて遅刻も増加して、担任は自分の授業に行くまで学生の出欠状況を掴みにくいということもあり、SHRを行うことにした。毎朝8時30分から5分程度であるが、とにかく始業前に学生の元気な顔を見るというのが第1の目的である。もちろん、連絡事項を伝達する時間ともなるし、「朝の読書」を行った例もある。学生に情報発信をする機会であることは間違いない。

③学年保護者懇話会の実施 — 本校では、全校的な保護者懇談会を、前期末の成績が出た後の10月末に実施している。その時には、学校全体の説明会と一人10分程度の個人懇談を行っていて、学年の状況・取組を伝える機会はない。「はじめに」で述べたように、保護者からは出来る限り多くの情報開示を求められており、また学校側も情報を得る機会が多いほど指導効果が高まると考え、平成18年度からまず2年団が学年保護者懇話会を始めた。それが好評であったということと、高専初年度である1年生にこそ必要であると判断し、平成19年度より、夏休み直前に1年生保護者懇話会を行っている。高専に入って初めての夏休みを迎えるに当たり、その過ごし方などを全体会で話し、後半は各クラスで担任の所感、成績表の見方などを話す。遠方からの保護者も出席できるよう19時頃から開催していることもあり、出席率は65%前後である。この取組も情報授受の手段として功を奏していると自負するものである。

④「一年団通信」の発行 — 情報発信不足の点を保護者から指摘されてきたことはすでに何度か述べたとおりである。担任によっては、成績送付時に印刷物を入れ、クラスの状況を伝えたこともあったが、「学年団」という集団の形をとった以上、学年として統一して情報発信をということで、平成18年度よ

り「一年団通信」を発行している。学校や教員の気持ちを学生と保護者の両方に伝えたい、という強い想いをこの通信には託している。2年団は「2年団ホームページ」を開設しているが、1年団は敢えて「紙」の形にこだわった。それは、印刷物をまず学生がきちんと読むこと、そして、それを保護者に話すあるいは手渡すことで家庭内でのコミュニケーションが生まれるのではと期待したからである。その期待感が、毎月の編集作業の苦労を軽減しているといえる。「一年団通信」の詳細については、以下の章で述べる。

3. 「一年団通信」

3.1 編集方法

年度ごとに1年団の中で「一年団通信」の編集担当教員を決め、その担当者を中心に編集を行っている。掲載記事に関しては、毎月、学年団会議の議題の1つとして提示し、学年団で記事内容を検討している。

掲載内容は、主に発行月に実施される行事に関する連絡・注意事項などを中心に構成されている。その他、1年生に関わるものだけではなく、学校全体に関わる行事の紹介や課外活動報告など、その時季に合わせた内容を選び、各担当教職員や学生に原稿を依頼、作成している。例えば、1年生の校外教育での活動報告やロボコン参加チームの抱負、海外交流活動報告など多岐にわたる。記事の内容を1年生の行事だけに限定していない大きな理由の1つは、1年生に上級学年で実施される行事や活動などを知ってもらうことにより、各自が自分の高専での将来のイメージを描いてもらうことを期待しているからだ。また、毎号で発行月とその翌月の2か月分の行事予定を掲載している。

3.2 配付方法

学生には、「一年団通信」を朝のSHRやLHRを利用して各担任から配布している。SHRでは、行事予定や連絡事項などを伝達する手段として、またLHRでは試験への取り組み方や夏休みの過ごし方、ゴミの分別方法など学校生活を送る上での注意点を伝達する手段として活用している。

保護者への配付方法は、学生自身から保護者に渡すよう求めている。寮生は帰省しないと渡せないが、帰省の際にまとめて、必ず保護者へ「一年団通信」を手渡すよう担任から申し添えている。もちろん、すべての学生が必ず保護者に渡しているとは限らず、課題となっている。

保護者からは、保護者懇談会などの際に、毎号を自宅へ郵送して欲しいと要望されたこともあるが、学生から直接保護者へ手渡しをさせることにより、

「一年団通信」を利用して、学生と保護者が学校での出来事について話をする契機としてもらいたいとの視点から、発行ごとの保護者への郵送は実施していない。しかし、保護者の希望を無視することでもできず、年4回、定期試験の結果を保護者へ郵送する際に、試験結果を郵送する月までの縮刷版を同封するとともに、2008年度からは1年団のHPに「一年団通信」をそのまま掲載するようになった。

付録として、巻尾に「一年団通信」の一月分を添付する。

4. アンケート

4.1 目的・実施方法

「一年団通信」が学校からの情報発信源のひとつとしてその役割を担えているかを検証し、同様に情報の受け手（つまり、学生と保護者）の「一年団通信」へのニーズを探る作業を怠ってはならないのは当然である。

その検証の手段として、これまで2回、読者アンケートを実施した。1回目は発行開始から1年経った2007年3月に実施した。その際は学生に保護者宛てのアンケートを配布し、保護者へ渡すよう指示し、再度、学生を通じて回収する形式で実施し、36通の回答を得た。その中で、このような記事があれば良かったと思われる記事として最も要望が高かったのが「各種資格試験の情報」であった。そのため、翌年度から、国語・数学・英語の一般科目と機械・電気電子・情報の各専門科目に関して1年生でも受験可能な資格試験の日程や試験内容、具体的な学習方法などを紹介し、2007年のアンケート結果を反映させている。

2回目のアンケートは2009年3月に実施した。今回は1回目と違い、保護者と学生、別々に実施、更に保護者からの回収率を上げるために年度末の成績を郵送する際にアンケートと返信用封筒を同封し、返信してもらう形で実施し、これにより回収率は71.4%（120通）に達した。学生には特別活動の一環としての授業の中でアンケートを実施し、168通の回答を得た。

4.2 保護者用アンケート結果

①「一年団通信」の発行について

大変良い	42%
良い	49%
どちらとも言えない	7%
ほとんど必要ない	2%
全然必要ない	0%

②「一年団通信」を見た頻度について

毎号見た	34%
------	-----

ほとんど見た	27%
半分ほど見た	17%
ほとんど見ていない	21%
全然見ていない	1%

③「一年団通信」を学生から（寮生は帰省の時にまとめて）受け取った頻度について

毎号受け取った	20%
ほとんど受け取った	26%
半分ほど受け取った	20%
ほとんど受け取っていない	29%
全然受け取っていない	5%

④「一年団通信」のHP掲載に関する周知度について

知っていた	40%
知らなかった	60%

⑤「一年団通信の」HP掲載について（④の質問項目で「知っていた」と回答の方へのみ）

大変良い	42%
良い	48%
どちらとも言えない	10%
ほとんど必要ない	0%
全然必要ない	0%

⑥「一年団通信」において関心度の高かった記事について（5つまで複数回答可）

掲載記事総数32件の中から、回答数延べ10人以上の上位回答を掲載している。

掲載記事	回答数
入学おめでとう（4月号）	70
一年教員団紹介（4月号）	57
資格を取ろう！（5月号）	42
成績通知票の見方（12月号）	27
部活動に取り組もう！（4月号）	23
高専ロボコン2008中国地区大会（9月号）	23
いよいよ夏休み（7月号）	22
若いうちに読んでおくべき本（2月号）	19
中間試験に挑む（6月号）	18
タバコの恐怖（10月号）	16
心のモードを切り替えよう（9月号）	14
退職教員からのメッセージ（2月号）	14
弥生祭に向けて（10月号）	12
詩の講演会（7月号）	11
後期末試験に向けて（2月号）	11
国際交流報告（6月号）	10
小型ロケット打ち上げ実験合格（9月号）	10
風邪とインフルエンザ予防と対策（12月号）	10
年の初めに贈る言葉（1月号）	10

⑦「一年団通信」への希望掲載記事について（複数回答可）

希望記事	回答数
授業での様子	61
試験や提出物	43
クラブ活動	36
学校行事	34
校則や服装	2
携帯電話の使用	0
その他（自由記述）	
・ 学生の様子を知らせて欲しい	
・ 将来何になりたいか等のアンケート調査とか、 小中高になってどう変わっていくのか	
・ パソコンの使用	
・ 各クラスの取り組み、紹介など	
・ ロボコン、プロコン、ロケコン	
・ 授業の参考になるような本	

⑧良かったと思う点や改善点など（自由記述・原文のまま一部抜粋）

- ・ 中学校と違い、厳しいこと（現実的なこと）を書いていて、読んでいて親としても納得することが多く、楽しみに読み、子供が帰省時には親子で話し合う題材ともなっていました。2年生でもあるんでしょうか？あれば、又、楽しみに読ませて頂きます。1年間ありがとうございました。
- ・ 保護者へ直接配付が良いと思います。子供達の授業での様子やクラブ活動の様子が少し分かればうれしいです。いつの間にか学生として大きくなっていくのですが、うれしいようでもあり、まだまだ危なっかしい所もありという年齢であるので、もう少し学校側と保護者との連携が深まればと思います。
- ・ 早いものでもう1年が過ぎてしまいました。親子共々初めての高専入学で右も左もわからず、不安が一杯でした。そんな中、「一年団通信」は親にとって、わが子の話だけでは分からないことや我が子も知らない事まで知ることができ、少しずつ不安が消えていくのが分かりました。とてもありがたく、感謝しております。ありがとうございました。これからも楽しみにしています。
- ・ 通信でほとんど話してくれない学校の様子の一端が分かりました。また記事のことを話題にし、親子で学校のことを話す機会が持てました。ありがとうございました。
- ・ 息子からは「一年団通信」は1度しかもらったことがありません。私は毎月ホームページで読んでいました。先生方からの貴重なアドバイス等、息子はちゃんと目を通しているのだろうか…せっかく先生方が生徒のためを思って作ってくださって

いるのに…と。これは絶対に読ませたいと思う記事があった時には、プリントアウトして赤線引いて部屋のドアに貼ったりしたものです。男の子からはなかなか学校の様子が伝わってきません。ぜひ、これからも「一年団通信」を続けていってください。

4.3 学生用アンケート結果

①「一年団通信」の発行について

大変良い	17%
良い	48%
どちらとも言えない	22%
ほとんど必要ない	10%
全然必要ない	3%

②「一年団通信」を見た頻度について

毎号見た	29%
ほとんど見た	23%
半分ほど見た	30%
ほとんど見ていない	14%
全然見ていない	4%

③「一年団通信」を保護者へ（寮生は帰省の時にまとめて）渡した頻度について

毎号渡した	14%
ほとんど渡した	23%
半分ほど渡した	15%
ほとんど渡していない	22%
全然渡していない	26%

④「一年団通信」を元に家族と話した頻度について

毎号話した	3%
ほとんど話した	3%
半分ほど話した	22%
ほとんど話していない	33%
全然話していない	39%

⑤「一年団通信」において関心度の高かった記事について（5つまで複数回答可）

掲載記事総数32件の中から、回答数延べ10人以上の上位回答を掲載している。

掲載記事	回答数
部活動に取り組もう！（4月号）	56
入学おめでとう！（4月号）	55
一年教員団紹介（4月号）	42
美作総体に行こう！（5月号）	40
若いうちに読んでおくべき本（2月号）	29
カウンセリングルームの紹介（5月号）	28
いよいよ夏休み（7月号）	28
資格を取ろう！（5月号）	26
退職教員からのメッセージ（2月号）	26

さあ、冬休みだ（12月号）	25
中間試験に挑む（6月号）	23
高専ロボコン2008 中国地区大会（9月号）	20
タバコの恐怖（10月号）	19
弥生祭に向けて（10月号）	19
詩の講演会（7月号）	14
小型ロケット打ち上げ実験合格（9月号）	13
風邪とインフルエンザ予防と対策（12月号）	13
後期末試験に向けて（2月号）	13
成績通知票の見方（12月号）	11
捨てる前に考えよう（11月号）	10

⑥「一年団通信」への希望掲載記事について（複数回答可）

希望記事	回答数
クラブ活動	53
試験や提出物	45
学校行事	36
各クラスの様子	27
校則や服装	17
携帯電話の使用	10
その他（自由記述）	
・先生のお薦めの本	
・タバコの恐怖	

⑦良かったと思う点や改善点など（自由記述・原文のまま一部抜粋）

- ・テストに向けての準備などが書いてあったので参考になった。先生からの言葉が載っていたのが良かった。
- ・1年の時は分からないことが多かったので、良かったと思う。
- ・先生の意見が聞けて良かった。高専はそういう関係がなかったと思っていたので嬉しい。
- ・一年はまだ入学したばかりで不安な要素が多かったのがかなり役立った。
- ・カラーにしたら見やすくとても良いと思った。
- ・その月の行事や活動が紹介されていて良かった。
- ・毎回読むのが楽しみでした。とても良かったと思います。

4.4 考察

保護者用のアンケート結果によれば、「一年団通信」の発行に関して、9割以上の保護者が「良い」と受け取っていることが分かった。そのため、学校側からの情報発信の機会の1つとして、「一年団通信」は十分な役割を果たしていると推察される。また、学生用アンケートから、6割以上の学生が「良い」という結果が見られ、学生にとっても「一年団通信」は概ね学校側からの情報を得る良い機会となっていると思われる。

8割近くの保護者が半分以上の号に目を通し、6割以上の保護者が半分以上の号を学生から受け取っている。学生を通じて保護者への手渡しを呼びかけた結果としては、概ね良好であったように思われる。しかし、学生へのアンケート結果より、「一年団通信」を元に保護者と話をした頻度については、ほとんど会話の元となっていないことが分かった。今後の掲載を進める上で、保護者と学生との会話に繋がる記事を模索していきたい。

津山高専のホームページの中の「津山高専1年生のホームページ（1年生担任団作成）」に「一年団通信」を掲載しているが、HPへの掲載を知っている保護者が4割のみと言う結果になった。保護者に対してHPに掲載している事実を知らせる努力が必要であったと思われる。そのため、2009年度は入学式後の保護者懇談会で紹介したり、「一年団通信」の中で記事の1つとして保護者へ通知したりする努力をしている。

記事の中で面白かったものや関心を持ったものについて、保護者も学生も年度当初の記事に関心が高い結果が得られた。高専入学時に最も高専の情報が必要とされていることの表れでもあり、入学当初には保護者や学生への情報発信が特に必要であると思われる。同様に、定期試験に向けての注意点や長期休暇の過ごし方、そして教員からのメッセージが含まれた記事に保護者や学生の興味・関心が高いと言う結果が表れている。概ね、ニーズに合った紙面構成ができていないかと思う。

最後のアンケート項目として、「一年団通信」で良かったと思う点や改善すべき点を記入するための自由記述欄を設けた。前項の中で一部のみを紹介したが、ほとんどが「一年団通信」に対して好印象のものであった。特に、保護者からは高専に入学したばかりの最も不安な時期に、学校側からの具体的な情報発信があることにに関して多くの謝辞があった。保護者が学校からの情報発信を強く求めていることが分かる。

5. おわりに

高専からは、あまり情報が発信されず、学校内のことや学生の様子が見えないと言われることが多い中で、特に中学校を卒業したばかりの1年生への情報提供に関して、様々な試みを実施してきている。その中でも、保護者と学生の両方に向けた情報発信の方法として毎月「一年団通信」を発行し、今回のアンケートにより保護者からも学生からも必要とされていることが実証された。今後も保護者や学生のニーズに合わせた情報を学年団として検討し、「一年団通信」の発行を継続していきたい。

参考文献

による保護者との連携の試み～，論文集「高専教育」，第26号，
(2003.3)，pp549-553.

- 1) 児玉英樹, 高専における学級運営に関する一考察～学級通信

来たる5月9日(土) 10日(日)を中心日として、第56回美作地区高等学校体育大会が開催されます。昨年度までは美作地区の高等学校が各競技ごとに学校対抗で対戦する大会でしたが、今年度から学校対抗が廃止されました。しかしながら、56回を数える伝統ある大会であり、総合開会式も行われます(閉会式は今年度より競技ごとになりました)。過去には「男子総合三位」という成績を収めたり、競技によっては、県総体やインターハイの予選を兼ねて行われ

美作総体ののご案内
美作総体に行こう！

一年團通信

第2号
平成21年5月1日
津山高専1年団
1年団通信編集部

まずので、出場するクラブは、良い成績を残せるよう、精一杯頑張つて欲しいと思います。また、普段、接することが少ない他校の選手との交流を深め、親睦を図って欲しいと思います。

(一般科目 荒木 祥二)

美作総体の競技日程(競技場所)と対戦相手

4月29日(水)

- ・ラグビー (美作ラグビー・サッカー場)
- ・VJ津山工業高校、
- ・林野高校



5月2日(土)

- ・ サッカー
- (津山東高校)
- の美作高校

5月4日(月)・9日(土)

- ・ 陸上競技
- (津山陸上競技場)

5月6日(水)

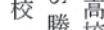
- ・ 硬式野球
- (津山球場)

VS 美作高校

5月9日(土)・10日(日)

- ・ バレーボール (津山工
- 業高校) VS 津山高校、
- VS 落合高校
- ・ バスケツトボール (作
- 陽高校)

VS 勝三
高校




・ ハンドボール (津山工

業高校) VS 津山工業高校

・ 柔道 (津山高校) VS 作

陽高校、VS 勝間田高校

・ 剣道 (美作高校) VS 勝

山高校

日頃の不安や悩み、問題は1人で抱え込まないで、誰かに話してみましょ。まずは、気軽に訪ねてみてください。

・カウンセリングルーム(保健室) 毎週火曜日15:00～17:00

TEL: 0868-24-9020

・総合支援室(専攻科棟2階) 授業がある日の放課後

TEL: 0868-24-8205 / E-mail: soudan@tsuyama-ct.ac.jp

・ほっとルーム(電子制御・情報工学科棟2階) TEL: 0868-24-8247

・ソフトテニス（津山スポーツセンター）VS勝間田高校と美作高校の勝者
・卓球（津山市総合体育館）VS蒜山高校
・バドミントン（津山東高校）男子：VS落合高校
女子：VS林野高校

5月17日（日）
・水泳（神伝流津山遊泳会プール）



5月の予定

1日(金) 水曜日の授業

3日(日) 憲法記念日

4日(月) みどりの日

5日(火) こどもの日

6日(水) 振替休日

7日(木) 水曜日の授業

9日(土)~10日(日) 美作総体

12日(火) 学生総会(15:30~)、

一斉懇談日(キャリアアドバイザー)

13日(水) 春季スポーツ大会(雨天順延)

14日(木) 歯科検診

16日(土) 寮祭(暁祭)
19日(火) 校内清掃(一年生)
20日(水) 春季スポーツ大会予備日
22日(金) 授業参観日

6月の予定

2日(火) 前期中間試験時間割発表、
一斉懇談日(キャリアアドバイザー)

6日(土)~7日(日) 県総体

9日(火)～15(月) 前期中間試験

24日(水) 1年生校外教育

30日(火) 寮一斉清掃

資格取得に向けて ～自分の将来のために～

「資格を取ろう」「資格を持つ」と将来、役に立つ」などと言われたことはありませんか？「資格を取る」ことは大事だと分かってはいても、どんなものがあるのだろう？どうやって勉強したらいいの？試験日っていつ？などと分からないことも多いでしょう。

そこで今月号では、1年生でも取得可能な資格試験を今年度の実施日程と併せて、各専門の先生方にお聞きしました。2年生以降の取得に向けて、今、勉強しておくべき点も挙げていただいていますので、参考にしてください。

先月27日(月)までに各自で学生課教務係へ提出した「資格関連科目」に関するものもあり、約1年後に「単位」として認められる試験もあります。各自でしっかりと準備を進めて、計画的に試験を受けていってください。

・漢字検定

漢字検定は2級合格で1単位、1級もしくは準

1級合格で1単位が認定されます。検定は年3回実施され、今年度は平成21年6月21日(日)平成21年11月8日(日)平成22年2月7日(日)の予定です。

2級は、校内で20名以上の申し込みがあれば、学校で受験できます。他に、公開会場(県内では岡山と倉敷)で受験することもできます(1級と準1級は、公開会場のみで実施)。

2級合格には、高校卒業までに習う全ての漢字の読み書きや、部首、四字熟語、対義語などに関する知識が必要です。受験を考えている人は、まず、国語の授業で使っている『常用漢字の学習』で、2級の部分をやってみましょう。手応えがあったら、さらに勉強を重ねて受験し、合格と単位を勝ち取ってください。分からないことがあったら、遠慮なく質問してください。皆さんの挑戦を待っています。



(国語科)

・数学検定

今年度の実施予定日は、次のとおりです。

7月11日(土)
12月12日(土)

図書館に数学検定の問題集が置いてあります。教科書を参考にしながら、問題を解いて練習してください。もし分からないところがあれば、先生のところに聞きにきてください。

「準2級」の出題範囲は、中学校3年の中ごろから高校1年の中ごろまでです。したがって、7月の検定でも一生懸命に勉強して望めば、合格することは十分に可能です。どんどんチャレンジしてください。(数学科)

・英語検定

英語検定では、準2級合格で1単位、2級合格でプラス1単位の単位認定が行われます。今年度の一次試験の実施日程は、平成21年6月14日(日)平成21年10月18日(日)平成22年1月24日(日)です。一次試験が筆記、二次試験が面接となっています。津山市内で受験することができます。検

定料は準2級が3600円、2級が4100円です。それぞれの試験日の約1ヶ月前が申し込み締め切りです。で、各自でしっかりと事前に計画を立て、試験に臨んでください。

(英語科)

・TOEIC-Bridge

TOEIC-Bridgeでは、140点以上で1単位が単位認定されます。今年度の公開テスト(岡山で実施)は、

6月7日(日)
9月6日(日)
11月1日(日)

です。受験料は4200円となっています。インターネットでの申し込みが便利です。

TOEIC-Bridgeで140点以上取れた学生は、TOEIC受験を目指してください。TOEICは、現在、就職する際の条件として(TOEICで550点以上など)、あるいは、入社後の昇進に関わる条件として、求められることが多い資格です。ビジネスの場面における英語でのコミュニケーション能力をはかるものさしとして、世界各

地で受験されています。自分の英語力を常に知っておくためにも定期的に受験することをお勧めします。是非、積極的にチャレンジしてみましよう。

(英語科)



・危険物取扱技術

2～5年生で選択科目となっており、1単位取得ができる。なので、1年生のうちに英語、数学、物理、化学をよく勉強しておくこと。(相談教員・機械工学科 北條先生)

・電気主任技術Ⅰ、Ⅱ
発電・送電・電気設備の保守管理などの仕事に携わる場合、必要な資格である。資格を取得すると資格手当が出る会社が多い。また、会社へ入社後、半強制的に取らせ会社も少なくない。試験は4科目(理論・電力・機械・法規)あり、まず2科目合格を目指す。2科目合格なら1単位、4科目合格なら2単位を習得することができる。

(相談教員・電気電子工学科 田辺先生)